情熱あふれる ふるさと 青森づくり

県民だより

あおもり

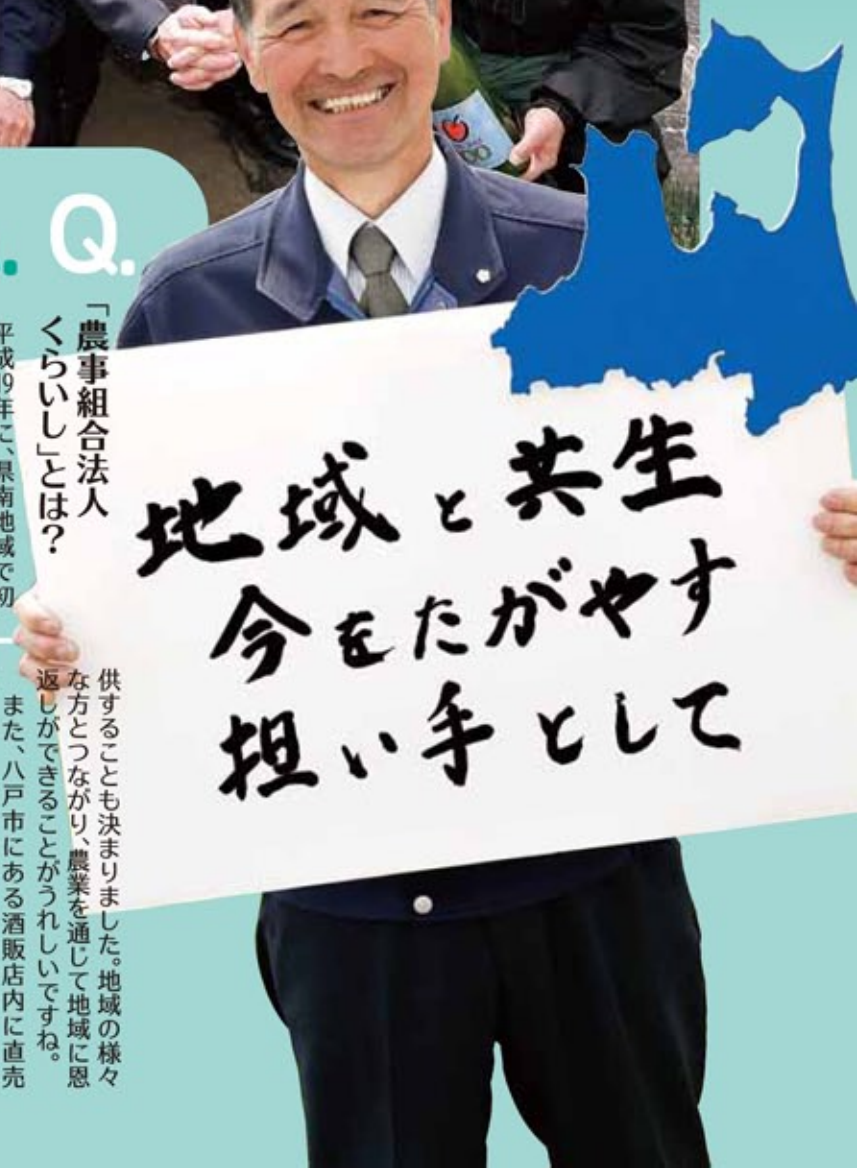
2012
6月号 No.133
編集発行／青森県広報広聴課
平成24年6月1日発行（偶数月1日発行）

特集 農山漁村の未来を支える「地域経営」…… P1~2
「あおサポ」があなたの婚活を応援・頑張る!あおもリスト…… P3
男女が わかち合い ささえ合う 青森県 …… P4
青森・ソウル線利用促進・土砂災害防止月間…… P5
やさしい青森県史・申吾のほっとコラム …… P6
若者の安定した就労のために・地域が支えるキャリア教育…… P7
インフォメーション…… P8

農事組合法人くらいしの皆さん

情熱特集

農業を基盤に、共に生きていく地域をめざして！



Q. 「農事組合法人くらいし」とは？

A. この地域では、農家の高齢化に伴い、10年ほど前から「田んぼの管理を任せたい」という声が相次ぐようになりました。

「地域の農業を何とかしたい」という思いから、より強い経営基盤を持つ組織をつくろうと関係者がプロジェクトチームを結成。

何度も協議を重ね、地域の農業や農地を我々の代で荒廃させずに、次世代に引き継ぐこと、組織が担い手となり、農業のプロを育てることを目標に、「農事組合法人くらいし」を設立しました。

現在、127戸の農家の農地70ヘクタールを管理しています。農業機械や施設を共同利用し、計画的に経営することで省力化とコスト削減ができました。

Q. どんな取り組みを？

A. 農地を計画的に利用し、ブロック分けをして1年ごとに米と大豆を交互に栽培することで連作障害を防ぎ、収量が安定しました。

地域の食品加工業者と連携し、例えば、ヤマゴボウ、しゃくし菜などの漬物の製品化も開始。冬場の雇用が広がりました。

そして、地元の南蛮味噌のメーカーから要請を受け、ダイコンとキュウリを提供することも決まりました。地域の様々な方とつながり、農業を通じて地域に恩返しができることがうれしいですね。

また、八戸市にある酒販店内に直売コーナーを設け、米や野菜を毎日配達しています。直播のこだわりの米は味も触感もよいと大変好評。売り上げも当初の目標額に到達しました。

自分の作った野菜や米が地域の人たちに喜ばれ、さらに収入がアップすれば非常にやりがいもあるし、農家の皆さんの表情もいきいきしてくるんですよね(笑)。

Q. 今後、さらなる展開は？

A. 生産・加工・流通の異業種の連携をさらに進め、新たな付加価値を生み出していきたいと思います。

今は、八戸市のパン業者が開発した、冷凍と解凍を繰り返しても風味が変わらない特殊技術と、うちで栽培した玄米や小麦粉をマッチングさせた玄米パンの商品化に向けて準備を進めています。

また、共通の悩みを抱える団体で、「青森県集落営農ネットワーク協議会」を今年2月に設立。それぞれの取組の情報を共有し、新たな魅力を作り出していきたいと思っています。

昨年五戸町には神奈川県横浜市から新規就農を希望する若夫婦が移り住み、地域の人たちと一緒に農業を学んでいます。

今後も一人でも多くのプロを育て、農地を大切に共に生きていける地域をめざしたいですね。